

## 留学報告書 ～Memphis survival～

メンフィス大学  
商学部生（中期）

私はアメリカテネシー州第二の都市であるメンフィスに交換留学生として四ヶ月在学しました。この報告書では、留学中での出来事や生活、留学に行く前と行った後の変化などについて記します。

まず初めに、私が留学に行った理由について簡単に説明します。私は中学生の頃から先輩の影響で洋楽などのアメリカの文化に興味を持ち、その頃から英会話を勉強し始め、いつか留学すると決めていました。しかし、高校生になり部活などが忙しく留学をするタイミングや留学をするという目標を見失っていました。その後大学二回生になった時、なにか在学中にできることはないかと考え、再び留学に行こうと決意しました。さらに、将来は英語を使ったり、海外に関連する職に就きたいという思いもあったため、留学は自分のキャリアのためにも必須なものだと考えていました。留学に行くまでの準備はとて長く一年ほどかかりましたが、それに見合った価値がアメリカでの生活にはありました。

メンフィスは全米でもトップクラスに治安の悪い都市であり、そこまで大きな都市ではなかったため少し不安はありましたが、実際に行ってみるとわかることや初めて体験することがとても多く良い経験になりました。おそらく多くの人が想像するアメリカはロサンゼルスやニューヨークなどの多文化な大都市だと思いますが、実際はアメリカの大部分は中都市が多く、メンフィスもその一つです。そのため、メンフィスでは、アメリカならではの日常や文化、貧困、危険などポジティブなことからネガティブなことまで、リアルな文化に触れることができました。

メンフィス大学には8月の後半に到着し、9月から授業が始まりました。到着日から授業開始日までの二週間弱はオリエンテーションや日常生活に必要なものの買い物以外にもウェルカムイベントという催しがあり、様々な国から同じように留学に来た人たちと交流することができました。留学の初めはやはりうまく会話することができず、特にリスニングが自分にとって大変でした。英会話を勉強していたときは英語での会話力さえあればなんとかなると思っていましたが、考えてみればまず聞き取りができなければ会話が続かないということに気づきました。

メンフィス大学での生活は、平日の毎朝9時から講義が始まり、午後3時過ぎ頃に終わります。その後は自由時間になり、課題や趣味、友達と時間を過ごすなどしました。

現地で知ったことなのですがアメリカの大学では日本に比べて課題がとても多く、ほとんど毎日課題が出されていました。講義は一ターム四種類しか取っていませんでしたが、すべての講義の課題を把握するのがかなり大変でした。

私が取っていた講義はリーディング・ライティング、文法、コミュニケーション、カンパゼーション、映画鑑賞の5つでした。

難易度は授業によって様々で、この中では特にリーディング・ライティングの講義が自分にとって難しかったです。リーディングの内容の殆どは課題として小説を読むものでしたが、初めて英語で表現された小説を読んでみてかなり理解するのが難しかったです。ライティングは元々得意ではなかったため難しかったと思いましたが、文の構成の仕方や書き始めに提示するテーマの書き方などの知識を得ることができました。

講義の中で最も簡単だったのは文法でした。内容の殆どは中学や高校の英語の授業で習うもので、テストでもそこまで困ることはありませんでした。さらに、文法の講義を受けて面白いことに気づきました。それは他の国から来た人たちよりも日本人は文法が得意だったことです。日本人以外の留学生は英語を使ったコミュニケーションがうまく、自分の

意見を言うなど英語を話すのが日本人よりも上手い印象でした。しかし文法では、日本では高校で習う文法を初めて覚えていたり、先生に何度か質問をしたりして少し苦労しているようでした。このことから話す英語と文法などの知識的な英語は違う能力なのだと気づきました。

アメリカの大学生活では、サンクスギビングという感謝祭やターム（学期）の間の一週間強の休みなど休日が日本より多く、サンクスギビングや旅行を楽しむことができました。旅行では高校時代からの友達が留学しているロサンゼルスに行きました。ロサンゼルスへは一人で向かったのですが、アメリカに来てから完全に一人で行動することが初めてだったため飛行機にしっかり乗れるのか、問題があったら一人で対処できるのかなど心配事もありましたが、なんとか問題なくメンフィスまで戻ってくることができ、いい経験になり海外でも一人で行動することができるという自信にもなりました。

ロサンゼルスはメンフィスとは人の数も街の大きさも何もかも違い別の国のように感じました。またロサンゼルスにも多くの日本人が留学しており、その人達とも交流し、違う都市での留学経験の話聞くことができました。また多くのロサンゼルス在住のアメリカ人とも交流しましたが、そこで気付いたことがメンフィスの人たち以上に英語が聞き取りやすいということです。ロサンゼルスには当然アメリカ人、日本人以外の国の出身の人たちも多く、様々なアクセントや英語のレベルの人たちがいるため比較的聞き取りやすいのだと思いました。

最後に留学を終えたあとの目標についてと四ヶ月の成果について合わせて記述します。私の次の目標はこの留学で培った英語力と四ヶ月間アメリカで生活した経験を活かし、カナダでの一年間のワーキングホリデーをすることです。ワーキングホリデーでは飲食などではありますがそこで働くため、留学に比べより英語力が必要になります。

この四ヶ月の留学で確かに自分の英語力は行く前よりも伸び、現地の人達とも会話をすることができるようになりましたが、何度か聞き返したり自分の思ったことをうまく表現できなかったりと、まだ完全なコミュニケーションを取れるレベルではなく発展途上だと感じました。最終的には海外で問題なく会話ができ、それを活かして仕事をするのできる英語力を目指したいと考えています。そのため四ヶ月では足りないと感じカナダに行くことを決めました。メンフィスでの留学は私にとって初めての長期での海外経験、そして次の目標の準備期間としてとてもいい経験となりました。